

主任コラム5月号

主任 澤井 良子

新年度が始まり 1 か月が経ちました。新入園児も進級児もクラスのお友だちや、保育士にも慣れてきて少しずつ自分を出せるようになってきたように思います。

各クラスの保育室は、子ども達が自由に遊びを選択できるように環境としてゾーンがあります。今月は0・1歳児クラスの保育環境をお伝えしたいと思います。好きな遊びを好きな友達と集中して遊び込めるようにというねらいと、動と静と畳のゾーンがあり、発達によって子ども達が選んでいます。今、目の前にあるおもちゃの遊びが物足りなく感じたら、一つ発達の上に当たる子たちが遊んでいる環境に移行していくということです。0歳児の畳のゾーンは、子ども達がハイハイや、つかまり立ちをして、子ども達が選び手にとれるような環境となっています。保育所保育指針の中ありますが『子どもが自発的・意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にする。特に乳幼児にふさわしい体験が得られるように〜』とあります。子ども達の育ちの為に環境を大切に保育していきたいと思っています。

0・1歳児クラスの保育室



↑ 0歳児畳ゾーン(つかまり立ちをしても手に取れる環境) ↑ おおまごごと・スイッチゾーン



↑ 動のゾーン

↑ 汚れ物のお片付け

今月に入り2歳児クラスに、年長児がお手伝い保育に来てくれています。お手伝い保育は、ただ小さい子のお世話を何でもやってあげることがお手伝いではなく『言葉をうまく伝えられない小さい子の気持ちを表情や仕草で気づき、必要な時に手を貸してあげることができたか?』という事を大切にする事も伝えています。難しく聞こえますが、こういう積み重ねが相手の気持ちを想像して考える…という事に繋がっていくのだと思います。先日、午前のおやつで「バナナ2個と1個どっちがいいですか?」と言いながら、お手伝いをしてきているR君がいました。でも、そのトレーには2個のバナナのお皿が1つしかなく、他の子が先に選んだので1個のお皿しか残っていませんでした。次の子が2個のお皿を指さしたのでR君は困った表情をすると、2歳児の子は1個のお皿を選びました。そこで私が2個のお皿を用意し、もう1度R君が2歳児の子に聞くと、やはり1個ではなく2個の方を選びました。言葉は交わさなかったのですが、2歳児の子はR君が困っていることに表情を見て感じ1個で我慢しようとしたことが読み取れました。年長児だけではなく、お手伝い保育の中で小さい子も大きい子の表情を読み取ることができるのでは…と思いました。このことから、小さな時期から色んな年齢の子と関わり、他者の感情・表情を想像し気付くという体験を保育の中で沢山して欲しいと感じました。